

薬用植物園を市民に公開 「薬科大、身近に感じて」

京都薬大

京都薬科大学は5月25日、学内に設置した薬用植物園「御陵園」を1日限定で市民に無料公開した。住民ら約1400人が来園し、見頃を迎えた薬草の花を楽しんだ。



バニラの花

薬用植物園では、約300種の薬草を栽培しているが、当日は初夏の午前中に一度咲くと枯れてしまうバニラの花など、普段見られない薬草の花に来園者の関心が集まった。薬草のルーツや効能を説明する案内役として学生ら12人も参加した。

京都薬大が初夏のシーズンに薬用植物園を公開するのは初めて。2014年から地域貢献の取り組みの一環として毎年秋に見学会を開いてきたが、「花が咲いている時期も見たい」という参加者の声を受けて開催を決めた。

薬用植物園長で生薬学分野教授の松田久司氏は、「薬系大学に親しみを持ってもらいたい。こうした機会に薬草の簡単



約1400人が来園した

な知識を得てもらえれば」と期待を語った。

また、「地域貢献活動は学生の学びの場にもなる」と指摘。「学生自身が植物について調べた上でアウトプットするため、教育効果は高い。合成医薬品が全盛の時代に薬用植物園の必要性を問う声も聞かすが、地域貢献や教育といった面でも存在意義を示したい」と力強く語った。